

# 「底が突き抜けた」時代の歩き方<sup>466</sup>

年表から飛び出してくる 1968年 - 1968年(日本編)

## 1968年(日本編)

**円谷幸吉自殺** 1月9日、64年の東京オリンピック、マラソンでエチオピアのアベベ(世界最高記録で五輪二連勝)、イギリスのヒートリーに次ぐ三位で、陸上競技唯一の銅メダルを日本にもたらした円谷幸吉(27)が、メキシコ五輪を前に自殺。

「父上様、母上様、3日とろろ美味しかったです。干し柿、もちも美味しかったです。敏雄兄、姉上様、おすし美味しかったです。勝美兄、姉上様、ブドウ酒、リンゴ美味しかったです。巖兄、姉上様、しそめし、南ばんづけ美味しかったです。喜久造兄、姉上様、ブドウ液、養命酒美味しかったです。又いつも洗濯ありがとうございました。幸造兄、姉上様、往復車に便乗させて戴き有難うございました。モンゴいか美味しかったです。正男兄、姉上様、お気を煩わして大変申し訳ありませんでした。幸雄君、秀雄君、幹雄君、敏子ちゃん、ひで子ちゃん、良介君、敬久君、みよ子ちゃん、ゆき江ちゃん、光江ちゃん、彰君、芳幸君、恵子ちゃん、幸栄君、裕ちゃん、キーちゃん、正嗣君、立派な人になって下さい。父上様、母上様、幸吉はもうすっかり疲れ切ってしまって走れません。何卒お許し下さい。気が休まる事なく、御苦労、御心配をお掛け致し申し訳ありません。幸吉は父母上様の側で暮しとうございました」(遺書)

**エンタープライズ寄港阻止闘争** 1月15日、三派全学連中核派の学生約200人が、法政大学構外で機動隊と衝突、学生131人が凶器準備集合罪などの疑いで逮捕。逮捕を逃れた70人は急行「雲仙・西海」で佐世保へ。

16日、博多駅に待機の警官1300人。到着の反日共系学生400人と衝突。社共、核持ち込み反対など5項目で合意。米原子力空母エンタープライズ寄港反対を共同で政府に申し入れ。

17日、佐世保に結集し米海軍基地に向かう反日共系学生800人、厳戒の警官1400人と平瀬橋で衝突、正午から一斉検挙に入り27人逮捕。市民病院前での検挙の折、見物の市民、報道陣にも警棒で殴りかかるなどし、警官の暴力問題化。北折寄港警備本部長は「申し訳ない」としながらも、「乱暴するなどの命令に従わなかったのだから、危害を加えた警官個人の責任」と語る。以後、1/21までに4たび衝突、重軽傷519人。公明党、結党以来初めて佐世保で寄港反対集会。

19日、世界最大の原子力空母エンタープライズ(7万5700排水t)を中心とする米原子力艦艇が、北ベトナム攻撃のため同海域に向かう途中寄港(艦船修理、食料・燃料の補給、乗員の休養等の目的)で、午前9時36分、佐世保港に入港。野党・労働

団体・学生は安保体制の強化、日本の核基地化につながるとして一斉に反撥し、ぞくぞくと佐世保に乗り込み、抗議集会やデモを繰り返す。

18日、前日に続き、学生と警官隊が衝突。朝から反日共系全学連のデモ隊400人が佐世保基地への侵入を図り、佐世保橋付近で警官隊と衝突、50人負傷、学生8人逮捕。湾内では反対派漁船16隻がのぼりを押したてて海上をパレード、氣勢を上げた。東京残留の三派全学連は外務省4階に乱入、廊下を30分占拠、89人逮捕。

21日、社共による佐世保2万人集会。三派系全学連は佐世保橋で米軍基地内突入を試みたが、放水・催涙ガスで後退、市民や社会党系デモ隊なども橋際に詰めかけて大混乱。夕方近く、中核派学生90人が橋の下流の水かさの減った佐世保川を歩いて渡り、4人が基地の金網をよじ登り、2人が基地に入り逮捕、残る2人は柵の上で基地突入を果たしたと叫び、引き返した。23日、エンタープライズ、出港。

**東大闘争** 1月29日、東大医学部の学生がインターン制度に代わる登録医制度に反対し、無期限ストに突入。

2月12日、医学部、1月19日の医局長かん詰め事件で17人の処分を発表。

3月26日、処分された学生のうち1人が、同事件と同じ時間に久留米市にいたことが立証され、東大側の誤認の可能性があるると各部教授懇談会で報告。

28日、全闘委の学生が安田講堂での卒業式実力阻止を図ったため、大学側は卒業式中止、各学部で卒業証書の伝達式。

6月15日、反日共系の学生が安田講堂を占拠。17日、大河内一男総長の要請で、警視庁機動隊1200人が同大学構内に。学生は自発的に退去。

20日、機動隊導入に抗議して、法学部を除く9学部が一斉に1日スト、授業はほぼ完全にストップ(60年安保闘争時の全学自然休講以来のこと)。

26日、東大文学部スト突入。

28日、安田講堂で大河内総長出席による「東大集会」。約3千人の教職員、学生らで埋まり、あふれた約2千人はテレビ中継した教室で集会に参加。大河内総長は激しいヤジの中で約1時間20分にわたり所信を表明し、学生の質疑に応じる。機動隊導入問題については、「全責任は自分にある」といい切り、医学部の処分問題については「粒良邦彦君の譴責処分は、事実誤認だという粒良君の言を尊重して医学部教授会に差し戻し、残りの学生は再調査するよう医学部教授会に要請する」と約束。一方、「東大集会」に先立ち、午前中から開いた東大評議会でも、粒良君の処分は白紙に戻し、残り16人の研修生、学生らの処分についても改めて事情聴取など再調査する方針を決めた。

7月2日、反日共系学生ら250人が安田講堂をバリケード封鎖。5日、教養学部も無期限スト突入。一方、安田講堂封鎖派の総決起集会が同講堂で開かれ、約3千人が参加、東大全共闘結成(山本義隆議長)。24日、東大助手共闘会議結成。

8月10日、東大は緊急評議会を開き、医学部学生11人の処分は審査機関をつくり再調査することなどを決め、更に、闘争の起点となった豊川行平医学部長、上田英雄東

大付属病院長の辞任を認める。いわゆる「8・10告示」といわれる大学側最終案が、一方的な告示という形式でなされたことが学生たちの反撥を招く。

28日、全共闘の学生約200人が医学部本館占拠。

9月9日、医学部卒業試験が都内数カ所で極秘のうちに行われ、受験対象者の半数足らずの45人が受験。残りの60人余は試験ボイコット。

16日、本郷構内の5つの学部で学生大会、学部集会。医学部の学部集会には教官、学生約1300人が参加。小林学部長への約8時間にわたる追及の結果、「医学部長の責任で卒業試験を延期する方向で努力する」と答え、卒業試験を受けた45人はショック。太田邦夫教授が「粒良君の処分はいまでも誤りではなかった」と発言したため、学生たちは反撥し、教養学部では反日共系学生が学部長室、事務室封鎖。

18日、医学部緊急教授総会、卒業試験を一時延期、当分休講を決定。22日、全共闘の学生約250人が医学部付属病院の外科系医局・研究棟をバリケード封鎖。

10月3日、医学部教授会、粒良君の譴責処分は「事実誤認」とし、処分を白紙撤回、陳謝を表明することで一致。

12日、法学部無期限スト突入、バリケード封鎖。開校以来初の10学部「無期限スト」。

18日、東大医学部神経内科の医局員15人全員が教授会に抗議し、「25日からスト終了日まで一切の診察を有給者のみで行う」と決議し、無給医診療拒否。

20日、医学部教授会は、医学部闘争の発端となった青年医師連合（青医連）東大支部を交渉相手の一つとして認めることに決定。

11月1日、東大評議会で大河内総長の辞任を承認。闘争の発端となった医学部の豊川前医学部長、上田前東大病院長の東大教授退官を承認。10学部の現学部長全員も辞任。

4日、新学部長会議で加藤一郎法学部長を学長事務取扱（代行）に選出。文学部の法文2号館で文学部学生の処分をめぐる林健太郎新文学部長らとの「大衆団交」が始まる。これは昨年12月学生と教官の話し合いで、途中退席しようとする教官のネクタイを掴んで無期停学処分となり、内規によりこの9月に処分解除となった哲学科4年の学生の処分の白紙撤回を学生側が要求したもので、教官39人も参加。

6日、休憩に入り、林学部長、岩崎、堀米両評議員の3人は禁足。成瀬助教授は疲労で退場。教授側は「不法監禁」と掲示。

8日、「大衆団交」は100時間を超え、各学部教官有志は「基本的人権の重大な侵害にほかならない。大学を無法地帯とする暴挙である」と発表し、丸山真男教授ら35人が署名。作家三島由紀夫ら学者・文化人グループは「緊急の訴え」を出す。教官団は「それでも学生か」と抗議のシュプレヒコール。学生側との話し合いは平行線をたどり、対応は林学部長と山本（信）助教授の二人となる。

12日、林学部長は173時間ぶりにドクター・ストップで解放され、ただちに入院。「大衆団交」貫徹を要求する全共闘は全学バリケード封鎖を予告し、これに反対する日共系学生と乱闘となり、約70人が負傷。全共闘は工学部などを実力封鎖。

14日、法学生大会、全学封鎖反対決議。

18日、全学集会で東大当局と全共闘との予備折衝物別れ。19日、工学生大会、全学バリ封鎖反対可決。総長代行らと統一代表団準備会（日共系）との予備折衝。

21日、農学生大会、全学バリ反対可決。22日、図書館封鎖。学生側は「自主管理」で駒場祭開催。ポスター「とめてくれるなおっかさん 背中の一ちょうが泣いている 男東大どこへ行く」(文科 類2年、橋本治)でより一層注目を浴びる。

25日、ノン・セクトが東大学生団体総連合結成。農学生大会、全共闘書記局を罷免、新執行部選出。29日、図書館前（本郷）で学生5千人と教官800人による「提案集会」が3時間余開かれるが、加藤総長代行の発言はたった3回、しかも「なぜ、私のいうことを聞いてから議論しようとしませんか」がただ一回はっきり聞こえただけ。大学当局の「提案集会」に対して全共闘は「粉碎」、日共系は「阻止」集会で対抗し、加藤代行を奪い合ったため、流会后、両派が衝突を繰り返す。

12月1日、駒場共闘、8号本館封鎖。2日、加藤総長代行の名で紛争解決案を学内配布。

4日、法学部、農学部学生大会でそれぞれスト続行決議。

5日、理学生大会で全学バリ封鎖否決、スト解除も否決。

6日、駒場で社青同解放派と革マル派内ゲバ。

7日、工学生大会、「加藤提案断固拒否」を可決。10日、教養部（駒場）で革マル派と社青同解放派の対立が激化、駒場寮前で約200人が衝突、60人ケガ。

11日、警視庁、田村二郎教養学部長に対し、「今後、衝突があった場合、大学側の要請がなくても警官を学内に立ち入らせることもある」との警告書を渡す。

13日、教養部で全学連行動委員会（日共系）が開いた代議員大会に、全共闘が乱入し、教官ら58人ケガ。6日からの争いで重軽傷者は計128人を超える。14日、加藤総長代行、学内紛争が年内に解決の見通しが立たない時には入試中止もあると言明。

15日、7学部代表団（民青系）と大学の予備折衝に反対し、会場を全共闘が封鎖。

23日、全共闘、法学部研究室封鎖。25日、全共闘、法1号館封鎖。法学部学生大会でスト解除決議。26日、経済学部スト解除。27日、教養学部スト解除。29日、入試中止決定。

2月5日、B52爆撃機が嘉手納基地に大量飛来。

10日、琉球政府立法院が即時撤去要求決議。

11月10日、アメリカ統治下で行われた初の琉球政府主席の公選で、本土復帰のあり方をめぐって、「即時無条件全面復帰」「反戦・平和」を掲げる野党統一候補の屋良朝苗（65）と、米軍基地と一体化した「漸進的復帰」を掲げる沖縄自民党総裁の西銘順治候補との一騎打ちで、戦後23年間にわたるアメリカの統治と日本政府の沖縄政策への不満、祖国復帰への熱意の強さに押し上げられた屋良候補が勝利。政府・自民党は「島民の選択を謙虚に受けとめる」としながらも、強いショックを受ける。屋良は72年の返還後、県知事にも就任し、沖縄県では78年12月まで革新首長時代が続いた。

**金嬉老事件** 2月20日、静岡県清水市朝日町のキャバレーで暴力団員2人がライフル

で撃たれ、死亡。借金返済を迫られていた犯人の元ブローカー金嬉老（41）は、犯行後車で45km離れた寸又峡温泉へ逃走、旅館にライフル、ダイナマイトを持って入り込み、旅館主、客など13人を「人質」として立てこもり、清水署に自ら通報。

21日、早朝駆けつけた警察に対して、（1）清水署の刑事が在日朝鮮人に対し、「テメエラ朝鮮人は日本に来て、ロクなことをしないで」と罵倒しているのを耳にした金が抗議の電話をした際、「何をこきやがるこの野郎、テメエラ朝鮮人はそれくらいのことを言われてあたりめえだ」と応答したこと、（2）暴力団曽我一家が日ごろどういうことをしているのかの二点を公表してほしい、その後自分は前の広場でダイナマイトで自殺して責任を取る、と要求。金はスコープ付きライフル銃と弾丸1200発、ダイナマイト130本を持っているため、防弾チョッキに身を固めた警官100人も遠巻きにする中、報道陣が多数詰めかけ、旅館前などでインタビューに応じたり、銃を空に向け乱射したり、ダイナマイトを爆発させるなど、粉雪の舞う山間の温泉街は緊張に包まれた。

22日、旅館経営者の妻、子供3人を解放。23日夕方、人質客3人を解放。

24日午後3時23分、記者会見のため玄関に現れた金に、記者に変装した10人の刑事が飛びかかり逮捕。88時間に及ぶ逮捕劇で、この間、金はモーニングショーへの電話出演、旅館内での記者会見など、マスコミを通じ警察の在日朝鮮人への差別を糾弾。「わたしの行為はけっして鬼畜の行為でもなければ、悪性の人間の行為でもないと確信をもっています。…日本の戦争に協力し、それにかり出され、それに協力してその傷跡を背負って、いまなお日本の社会のなかで安定した職業もなく生活の保障もなく、日本のなかでギリギリに生きている、そういう同胞たちのことを深く深く考えてやっていたきたい」と、公判で金は最終陳述。

72年6月、静岡地裁、無期懲役。75年11月、最高裁上告棄却。

**成田空港阻止闘争** 2月26日、成田空港阻止三里塚集会。成田市役所前で、空港建設に反対する農民・反日共系学生が機動隊と衝突、戸村一作委員長重傷。

**イタイタイ病公害訴訟** 3月9日、神通川流域のイタイタイ病患者28人が、三井金属鉱業を相手どり損害賠償訴訟へ。5月8日、厚生省が同病を公害病と認定。

9月26日、政府はイタイタイ病の認定に続き、熊本県水俣湾周辺と新潟県阿賀野川流域で47人の死者と多数の患者を出した二つの水俣病を「公害病」と認定。政府見解は、熊本水俣病についてはチッソ水俣工場が「原因」と認定。しかし、新潟水俣病は昭和電工鹿瀬工場からの廃水中に含まれるメチル水銀化合物を「基盤にして発生」したとしており、新潟県では「なぜ工場の責任と断定しない」と不満の声が挙がる。また、チッソ水俣工場の支社長が患者をまわって陳謝したのに対し、昭和電工社長は「鹿瀬工場の廃水が原因ではない」と争う姿勢をみせる。この日の発表まで熊本水俣病の発見から10年、新潟水俣病からは3年3カ月が経つ。

10月15日、北九州市が続発する米ぬか油中毒事件で、製造元のカネミ倉庫製油部に営業停止通達。16日、厚生省、販売禁止。

**王子野戦病院反対闘争** 3月18日、米陸軍キャンプ王子病院開設。28日、王子野戦病院反対闘争で学生のデモ隊が病院内に侵入し、将校クラブ占拠。179人逮捕。

**日大闘争** 5月23日、4月15日に国税庁が発表した日大の経理20億円の用途不明金をめぐり、経済学部学生ホールで無届け集会。参加者1500人が経済学部1号館前から本部前まで日大初の200mデモ。

25日、秋田明大ら経済学生会執行部12人など自宅謹慎処分。

27日、経済学部前に法・経・商・芸術学部学生7千人、抗議集会。全学共闘会議結成（秋田明大議長）。31日、文理学部大衆団交要求集会、1万人参加。

6月11日、20億円の用途不明金問題と学園民主化をめぐって、経済学部本館前に集まった全共闘の学生と、これに反対して本館内に立てこもった体育会系の学生が衝突。100人超のけが人が出て機動隊が出動、全共闘はこれまでみられなかったヘルメット姿を混じえた学生が投石で対抗、6人検挙。後、法学部3号館占拠。体育会系学生の戦術を逆手にバリケード封鎖。12日、経済学部無期限スト突入。

13日、古田会頭、団交に応ぜず、理事総退陣もせずと見解発表。

15日、東京・世田谷区桜上水の日大文理学部、スト突入、籠城。

19日、全共闘の学生500人が東京・西神田の大学本部に入り、入口をバリケード封鎖。練馬区旭丘の芸術学部スト突入。世田谷区下馬の農獣医学部で学生会スト決議。

29日、日大教職員組合、理事総退陣要求し初のデモ。

7月4日、全共闘の学生約4千人が経済学部1号館前の路上で総決起集会開催。その後、約1時間半、西神田や三崎町周辺デモ。8日、理工学部スト突入。

9日、日大、計8億4100万円脱税判明。国税局は重加算税、延滞税など11億1千万円徴収。20日、古田会頭、8月4日の大衆団交約す。24日、古田会頭、8・4大衆団交無期延期申し入れ。8月1日、一方的団交拒否通告。

9月4日、経済学部、法学部占拠の全共闘学生排除の仮処分を機動隊等の応援で強制執行。学生132人逮捕。全共闘は抗議集会を開き、再占拠してバリケード封鎖。

5日、機動隊、再びバリケード撤去。学生、再々占拠し、法学部3号館も占拠。

6日、経済学部前で抗議集会後、法、経学部4度目の占拠、バリケード構築。学生は5千人にふくれ上がり、水道橋の白山通りにまで広がり、フランスデモ。機動隊は催涙弾、ガス銃、ガス筒を打ち込み、35人逮捕。9日、福島県郡山市の工学部、本館に続き図書館封鎖。10日、法学部教授会、退陣決議。

16日、文化サークルの連合体、文化団体連合会が、日大講堂で大学側と話し合い、永田総長辞意表明。19日、医学部スト決定。これで11全学部スト。29日、去る9月4日の日大の校舎占拠排除の仮処分に出動、投石で入院中の第5機動隊巡査部長（34）死亡。警視庁の警官が治安関係の警備中殉職したのは3人目で学園闘争初。

30日、午後3時から日大講堂で1万人参加の初の大衆団交。周辺には支援学生2万5千人、これを妨害しようとする体育会系学生300人を始めとする800人集結。午

後3時すぎ、古田会頭が姿を現すと場内は騒然、「古田体制打倒」「集会の自由を認めよ」のシュプレヒコール。この集会は翌日午前3時まで12時間にわたって行われ、出席した15人の役員全員が一人一人マイクの前で、「まことに申し訳ありません。大いに反省しています」などと詫び、古田会頭は学生自治弾圧への「自己批判書」に署名し、使途不明金の全容公開、大衆団交再開、学生自治権の確立、体育会解散などの「確約書」に署名。

10月1日、佐藤首相、閣議で日大の大衆団交は「政治問題として取り上げる段階にきた」と強硬発言。2日、9月30日の「大衆団交」の席で約束した3月の「大衆団交」に日大理事会は「静かな会話望めぬ」と出席拒否を、全共闘側に通告。幹部は佐藤首相の大衆団交批判発言が影響していると述べる。3日、古田会頭、「確約書」破棄。

5日、日大全共闘議長秋田明大以下8人に逮捕状。7日、日大教職員組合、東京地検に「理事ら幹部に背任、横領の疑いがあるので捜査してほしい」との上申書提出。

9日、日大理事会の最終的な決議発表の記者会見の席に、古田会頭は姿を現さず、広報担当の80歳過ぎの東理事が現れ、記者会見にならず30分で打ち切り。

14日、郡山市の日大工学部本館に体育会系学生約150人が押しかけ、一階の用務員室、印刷室、医務室の約200m<sup>2</sup>を焼失。31日、日大評議員会後、古田会頭は大学定款改正の遅れを理由に、即時退陣を白紙撤回し、居すわることを言明。

11月8日、芸術学部を占拠中の全共闘派学生数十人に、ヘルメット、角材、チェーンを持った体育会系学生、他大学の応援団、右翼団体員約200人がマイクロバスで押しかけ乱闘。

12日、警官千人が全共闘が封鎖している芸術学部を傷害と暴力行為、商学部柔道合宿所を凶器準備集合罪の容疑でそれぞれ家宅捜査と現場検証。芸術学部では泊まり込みの全共闘派学生46人が投石で抵抗、警官はガス弾を撃ち込み全員逮捕。13日、再占拠。

12月6日、日大は大学定款（寄付行為）の改正を、理事会決定通り正式議決。

7日、理工学部教授会、「大学当局の授業再開強行の方針には反対。話し合いで授業を再開するため学部独自の立場であらゆる努力をする」と態度決定。10日、古田会頭、26日付で全理事退陣発表（新理事選出まで職務遂行）。16日、日大各学部疎開授業開始。

**九大米軍機墜落事件**6月2日、米第5空軍所属の偵察機RF4Cファントムが、米軍板付基地に着陸しようとして、九州大学工学部に建設中の大型計算センターに墜落炎上。

4日、水野九大学長が先頭に立ってデモをするなど、各地で抗議運動。

7日、全国23都道府県50カ所で学生ら1万6千人参加の統一行動。福岡市では米軍板付基地正面ゲート前で、「基地撤去」を叫ぶ反日共系全学連を中心とする学生たちが激しいデモ。11日、政府は米軍板付基地を移転させるとの方針を確認。

7月13日、九大は「米軍機引き下ろしは、九大が自前で行う。米軍、日本政府いずれからも費用は貰わず、カンパを募る」と語る。31日、米軍ジェット機の引き下ろし準備作業が始まるが、反日共系学生が阻止、工事中断。

8月22日、引き下ろし機体の保管庫建設作業開始まもなく反日共系学生約100人

が阻止行動、保管庫破壊。九大当局は機体引き下ろしを含めたすべての作業中止。

69年1月5日、墜落したままの米軍ジェット機主要部が覆面姿の約60人により引き下ろされ、水野学長、引責辞任表明。2月27日、九大、米軍機引き下ろし糾弾で本館封鎖。

4月14日、機動隊導入で封鎖解除（以後、封鎖と解除のいたちごっこ）。10月14日、機動隊導入し、教養部本館を最後の砦に4時間の攻防の末、封鎖解除し、米軍機撤去。

**横須賀線爆破事件**6月16日午後3時半ごろ、東京行き横須賀線電車が船橋から約1000mの踏切に差しかけた時、6両目の網棚の荷物爆発、乗客一人死亡、12人重傷。

11月9日、東京・日野市在住の大工若松善紀（25）逮捕。調べによれば、山形県の農家に生まれ、父をレイテ島で亡くした若松は、幼少の時東京から疎開してきたM子が忘れられず、中学校卒業後山形で大工見習いとなり、60年から東京・保谷市で大工となった。M子と再会した若松は恋をし結婚を約束する仲となったが、M子が同郷の友人と恋仲となり、結婚の望みが断たれたため、いつもM子がデートの折利用していた横須賀線の列車に時限爆弾をセットした。

71年4月22日、最高裁の上告棄却で死刑確定。獄中で若松は洗礼を受け、短歌を作るようになる。純多摩良樹の名で投稿された歌は、完成度の高い秀歌だった。

75年12月15日、死刑執行。「彼の犯罪には、フィリピンで戦死した父への思いが重要な影となっています。その年の6月16日は父の日で、朝のラジオで、お父さんに感謝しましょうと言っているのを聞き、父のいない自分には無縁の日だと反発したのが犯行の決行をうながしました。また東北の農村貧困のさなかで育ち、進学をあきらめて上京して大工をしていた自分が、繁栄する都会のなかで疎外され、しかも失恋の憂き目をみた恨みもあったようです。彼は、戦中戦後を通じて、軍国主義の熱狂にも高度成長の世情にも馴染めない境遇にありました。今から思えば、彼の犯罪には、日本の繁栄にも時代にも置き忘れられた人の怨念が込められていました（加賀乙彦、朝日新聞93.8.5夕刊）。

8月8日、札幌医科大学で**日本初の心臓移植手術**。同大学の和田寿郎教授（46）ら20人の医師団が執刀に当たり、心臓に異常肥大のある18歳の患者に前日水死した青年から提供された心臓を移植。手術は午前2時から5時まで3時間に及び、その間に人工心臓が約1時間使用された。患者は83日目の10月29日死亡。以後、臓器移植の際の「死の判定」をめぐる、医学界ばかりでなく患者の人権や生命倫理の問題として各界の論議を呼ぶ。

司法の反動（平賀書簡と飯守発言）9月20日、最高裁は札幌地裁平賀所長（56）が、長沼ナイキ訴訟の審理中に担当の同地裁福島裁判長に出した、訴訟判断に触れた「平賀書簡」について協議。「裁判の独立と公正について国民の疑惑を招き、まことに遺憾」との所信を明らかにし、平賀所長に「注意」処分、東京高裁判事への異動決定。

10月1日、鹿児島地裁の飯守所長、財団法人機関誌「国民協会」に「平賀事件は、反体制集団である青法協加入の裁判官、弁護士と、これを支援するマスコミ勢力によりつくりあげられた。最高裁当局は青法協加入の裁判官に、組織からの離脱を勧告すべきだ」と発表。

19日、国会の裁判官訴追委員会は平賀元所長に対し、助言は熱心のあまりと訴追せず、福島判事に対しては公表したのは著しい義務違反だと訴追猶予の政治色の濃い処分。

20日、大阪弁護士会、「訴追委の決定は不当であり、裁判官の思想・信条の自由に対する干渉」との声明。21日、東京弁護士会、「政治的観点から不当な決定を行ったもので、司法権の独立の侵害に道を開いた」と声明。

27日、国会の裁判官訴追委員会は青法協加入の裁判官に対する訴追請求調査のため、会員とみられる213人の裁判官に会員であるかどうか 照会状 を出したことが明らかに。大半が思想調査と反撥、回答拒否。

28日、札幌高裁、国会の訴追委で訴追猶予の決定を受けた福島判事に、「口頭による注意処分」。福島判事はこの処分を不服として辞表提出。30日、他の裁判官、弁護士らの説得により、「裁判所で良心貫く」と福島判事、辞表撤回。

11月7日、10月28日に福島判事が「この処分は裁判所自ら司法権の独立を放棄、時の政治権力に迎合した」と声明した件で、札幌地裁は処分批判「遺憾」と同判事に再び 注意 。福島判事は「仕事のため若干忍ばねば...再び辞表は出さぬ」と語る。

12月22日、鹿児島地裁の飯守所長、部下の裁判官15人に青法協加入、天皇制是非など4項目の公開質問状を発送し、問題化。25日、最高裁、所長解任し地裁判事に格下げ。格下げは戦後初の処置。本人は辞表を提出し、晴れ晴れと 三島礼賛 。

**連続射殺魔・永山則夫「無知の涙」** 10月11日、東京プリンスホテル敷地内でガードマン射殺（拳銃は同月上旬、在日米軍横須賀基地で盗まれた22口径小型拳銃）。14日、京都・八坂神社境内で警備員射殺。18日、銃弾が同一と認められ、広域重要事件「第108号拳銃による連続射殺事件」として広域調査へ。（19日、犯人永山則夫は兄に二つの殺人事件を打ち明け、自首を勧められ、死ぬつもりで北海道行き旅費を貰う）

26日、北海道亀田郡七坂町路上でタクシー運転手が射殺され、売上金強奪される（函館事件）。拳銃は前二件と同型。

11月5日、名古屋市内路上でタクシー運転手射殺され、売上金強奪。拳銃は同一。

69年4月7日、東京・渋谷区の一橋スクール・オブ・ビジネスで警備員が強盗を発見、犯人はピストルを発射して逃走、明治神宮北参道で逮捕。犯人は北海道網走市呼人番外地生まれの永山則夫。8人兄弟の7番目で、父が博奕に凝って家に寄りつかず、母が青森県北津軽郡に移住する際、中学2年を頭とする兄姉4人を置き去りにしたため、則夫らは新聞配達、屑拾いをして飢えをしのぎ、8カ月後津軽の母元に引き取られ、中学卒業後、65年3月渋谷・西村フルーツパーラー店員として働き始めた。この年9月香港へ密出国で検挙、宇都宮で自動車板金工場見習工として働きだしたが、窃盗未遂で検挙、以後店員、ボーイなどを転々、高校定時制に通学することもあったが、68年1月再び密出国で横浜海上保安部に検挙。杉並区大宮前の牛乳販売店に住み込んで定時制高校に再通学するが、5月に飛び出し、横浜で荷役作業員、自衛隊入隊試験に不合格となり、犯行に至った（検事論告）。

永山被告は公判廷において、「貧乏な奴があるからこういう事件がでてくる。自分が無知だったからこういう事件が起きた...俺はすべての奴が憎いからやったのだ...情状などはいらない...自分は今でも全然後悔していない」「勾留されたからこそ読書ができ資本主義が作り出してくる無知と貧困を知ることができた」と述べ、房内で書いた『無知の涙 - 金の卵たる中卒者諸君に捧ぐ』を出版、71年、印税を函館事件の被害者の遺族に贈った。

79年10月、「弁護士抜き裁判」適用第1号の第一審判決は被告欠席のまま、死刑判決。81年8月21日、東京高裁、無期懲役判決。83年7月8日、最高裁は高裁判決破棄し差し戻し。差し戻し審で弁護団の永山被告精神鑑定申請に本人が反対し弁護人を解任、獄中結婚した妻も「ついていけない」と85年4月離婚。87年3月18日、東京高裁、差し戻し前の一審死刑判決を支持、控訴棄却、永山被告上告。90年4月17日、差し戻し審、最高裁判決で死刑確定。97年8月1日、東京拘置所で死刑執行。

**国際反戦デー・新宿騒乱事件** 10月21日、社会党・共産党・全学連各派28万9千人（警察庁調べ）が参加して、全国で「国際反戦デー」の集会やデモ、大学ではパレードストライキなどが行われた。東京ではデモが許可されなかった反日共系全学連各派が、夕方から夜にかけて国会・防衛庁・アメリカ大使館などに突入し、機動隊と衝突を繰り返した。中核派など1500人のデモ隊は午後5時すぎ新宿駅構内に侵入、8時頃には各派が合流して約5千人に膨れ上がり、群衆約万人を巻き込んで駅を占拠した。電車や駅舎・信号機などが破壊され、警備車などが放火され、山手線・中央線は翌日までストップ、出勤した機動隊と学生との乱闘で駅周辺は市街戦さながらの様相となり、警視庁は22日までに769人を逮捕した。この事件で警視庁は22日午前零時15分、騒乱罪適用を指令して一斉検挙に踏み切った。騒乱罪適用についてはその可否が裁判で争われ、84年12月、最高裁が成立を認める判決を下す。

**3億円事件** 12月10日、午前9時20分頃、府中市の路上で白バイ隊員姿の若い男が、日本信託銀行国分寺支店の現金輸送車に停止を命じ、車を奪って逃走。一時間後、車は現場から約700m先の国分寺跡に乗り捨ててあるのが発見され、東芝府中工場への従業員のボーナス2億9430万円が入った三つのジュラルミンケースは失われ、史上最大の現金強奪事件となった。犯人は「支店長宅が爆破された。この車にも爆発物がしかけられている」と乗務員を避難させ、車体を点検するといって前方に回り、発煙筒を焚いた。乗務員がひるんだすきに車に乗り込みフルスピードで逃走、その間わずか3分だった。6日に支店長宛に脅迫状が届いていたことも、警官と思込ませる原因となった。犯行の手際のよさ、逃走用車の待機、土地や銀行内部の事情に詳しいこと、現金の入ったケースが一個50kgもあることなどから、捜査本部は複数の計画的犯行とみて、大捜査網を敷いて犯人逮捕に全力を挙げるが、7年後の75年12月10日、事件は未解決のまま時効となる。

《**事物**）パンティストッキング ラジカセ

（**流行語**）昭和元禄 ハレンチ 失神 ズッコケる サイケデリック ゲバルト ゲバ

- 棒 ノンポリ 大衆団交 とめてくれるな、おっかさん ノンセクト タレント候補 ピーコック革命 ライフサイクル 拒絶反応 ポップ ハト派・タカ派
- (TV)「ゲゲゲの鬼太郎」「巨人の星」「肝っ玉かあさん」「キーハンター」「旅がらくれないお仙」「竜馬がゆく」「男はつらいよ」「夜のヒットスタジオ」「お昼のワイドショー」「3時のあなた」「人に歴史あり」「お笑い頭の体操」「ドキュメンタリー・青春」「コント55号・世界は笑う」
- (CM)「大きいことはいいことだ」森永製菓 「わんぱくでもいい」丸大ハム
- (映画)「神々の深き欲望」「緋牡丹博徒」「肉弾」「絞首刑」「首」「初恋・地獄編」「燃えつきた地獄」「人生劇場 - 飛車角と吉良常」「吹けば飛ぶような男だが」「博奕打ち・総長賭博」「みな殺しの霊歌」「無頼より・大幹部」「黒部の太陽」「日本解放戦線・三里塚の夏」「2001年宇宙の旅」「卒業」「俺たちに明日はない」「ロミオとジュリエット」「異邦人」「猿の惑星」「暗くなるまで待って」「いつも心に太陽を」「冷血」「黒衣の花嫁」「オリバー!」「チキ・チキ・バン・バン」「ブリット」「質屋」「男性・女性」「ベトナムから遠く離れて」「召使い」
- (コミック)「あしたのジョー」「佐武と市捕物帖」 つげ義春「ねじ式」「ゲンセンカン主人」「もっきり屋の少女」 「ハレンチ学園」「男一匹ガキ大将」「夕日くん」
- (歌)「君だけに愛を」「花の首飾り」「廃墟の鳩」「神様お願い」「エメラルドの伝説」「長い髪の少女」「ブルーライト・ヨコハマ」「伊勢佐木町ブルース」「花と蝶」「年上の女」「長崎ブルース」「天使の誘惑」「星影のワルツ」「恋の季節」「恋のしずく」「小さな日記」「小さなスナック」「好きになった人」「三百六十五歩のマーチ」「ゆうべの秘密」「受験生ブルース」「グッド・ナイト・ベイビー」「知りすぎたのね」「今は幸せかい」「愛の奇跡」「友よ」「山谷ブルース」「ケメ子の歌」「マサチューセッツ」「ホリデイ」「テル・ミー」「デイ・ドリーム・ビリーバー」「サウンド・オブ・サイレンス」
- (本)羽仁五郎「都市の論理」 北杜夫「どくとるマンボウ青春記」 佐賀潜「民法入門」 司馬遼太郎「竜馬がゆく」 御木徳近「愛」 有吉佐和子「不信のとき」 丸谷オ一「年の残り」 大庭みな子「三匹の蟹」 陳舜臣「青玉獅子香炉」 早乙女貢「僑人の檻」 河野多恵子「不意の声」 三島由紀夫「暁の寺」 開高健「輝ける闇」 加藤周一「羊の歌」 中野好夫「蘆花徳富健次郎」 「ゲバラ日記」 森山大道「にっぽん劇場写真帖」
- (スポーツ)2/6 グルノーブル冬季五輪開幕、北朝鮮は正式国名使用拒否されボイコット 4/23 IOCは南アのメキシコ五輪復帰取り消し
- (LIFE)2/16 農林業人口が労働者の2割切る 2月初のレトルト食品「ボンカレー」発売80円 4/17 美濃部東京都知事、朝鮮大学校を各種学校として認可 4/18 霞が関ビル完成 4/25 東名高速開通 7/1 郵便番号制度実施、ポケベル営業開始》
- 2005年2月23日記

